HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ

タイトル	アトラ・ハシース叙事詩 (Atra-hasis) (4)
著者	桑原,俊一
引用	 北海学園大学人文論集(46): 41-71
発行日	2010-07-30

アトラ・ハシース叙事詩 (Atra-hasis) (4)

桑 原 俊 一

キーワード:古代メソポタミアの神話,アトラ・ハシース叙事詩,創造神 話,洪水神話

本稿はアトラ・ハシース叙事詩の翻字,翻訳とコメント等の継続である。 従って使用した主たるテキスト記号やその他の記号はアトラ・ハシース叙 事詩(Atra-hasīs)(1)を踏襲するものとする。

人間の数は夥しく多くなり、神々は人間の喧騒ゆえに忍耐できなくなる。 疫病や旱魃、飢饉をもたらせたが、知恵の神エア(エンキ)の策略を得て人類は生き延びる。 ついに神々は人間絶滅の決定を下す。エンリルは洪水によって殲滅を図ろうとする。しかし、ここでもエア(エンキ)は神々の決定に背いてアトラ・ハシースに箱舟の建造を進言する。洪水物語はすでにシュメールの時代から知られていた」。アトラ・ハシース叙事詩における洪水物語は出来事や叙述においてもほぼ 500 年後のギルガメシュ叙事詩においてはウトゥナピシュティムとして登場する。

本稿では第3の書板を取り扱う。冒頭はエア (エンキ) がアトラ・ハシー

学術雑誌等略記記号は(1) The Assyrian Dictionary of the University of Chicago, ed. Martha T. Roth, et. at. (Chicago, the Oriental Institute, 2005); (2) W. von Soden's Akkadishes Handwörterbuch, (Otto Harraassovits, 1966–1981); (3) R. Boger's Handbuch der Keilshriftliterature vol. 1 (Berlin, 1967), 661–672.に準拠する。

1 M. Civil, "The Sumerian Flood Story," in Lambert/Millard ed., 138-145.

スに箱舟建造を細部にわたって指示する記述に始まる。アトラ・ハシースは家族を始め、地上の諸動物や鳥類を舟に乗せると、天候は急変して空が破られるかのように大雨が箱舟を襲う。この光景に接した女神ニントゥー人間を創造した――は悲嘆にくれる。7日7晩の間、洪水が大地を襲ったが箱舟は耐えて残った。エンリルはなぜアトラ・ハシースを始め人類は生き残ったのか、とエア(エンキ)に詰問する。あっさりエア(エンキ)はその策略をめぐらしたのは自分であると認める。ともあれ物語は終章へ向かう。人口過剰にどう対処すべきか、その手立てが叙述されていたと思われるが、テキストは欠損が多い。

アトラ・ハシース叙事詩における洪水物語がギルガメシュ叙事詩や聖書の洪水物語と比較して明瞭なのは、後者は前者を下敷きにしていることである。しかし物語の終章部分は大きく異なる。つまり洪水伝承に関連して最も興味あることがらは、第3の書板の結末部分、つまり第7欄に描写されている。それによれば、結局のところ人類は絶滅の危機から逃れることになるのだが、人口の増加に歯止めをかけることでエンリルと折り合いをつけたことが叙述されている。この部分の詳細を知りたいところではあるが残念ながらテキストの破損が大きく、どのような方法で人口増加に歯止めをかけたのか、部分的には推測できるにしても、結論を得ることは困難と言わなければならない。この問題は単に今日的意味での人口過剰を意味すると解すべきではない、確かに人口過剰問題はあったにせよ、他方で結果的に人間の寿命が短縮されたことを意味する。つまり神々の時代に近かった王たちの統治年代は数万年であったことを考慮すると、アトラ・ハシース叙事詩における洪水物語は人口を減少させるための方策に言及することで、いわゆる歴史時代の到来を告げているともいえる。

第3の書板

基本的テキストはCとする。ただしi1-2はBDとする。

第1欄

1 ¹Atramhasīs piaš īpšama

アトラ・ハシースは口を開いて,

2 izzakar ana bēlišu²彼の主人に言った。

この後テキストCにおける10行ほどは欠損している。

- C₂ 11 [¹Atramhasīs] piaš īpšama アトラ・ハシースは口を開いて,
 - 12 [izzakar] ana bēlišu 彼の主人に言った。
- C₂ 13 [ša šutti w]uddia qerebša その夢の意味をわたしに教えてください³。
- C₂ 14 [……] x-di luštê sibbassa その前兆を探り出すことができますように。 [
- C₂ 15 [Enki p]iašu īpušamma 「エンキ」は口を開き
- C₂ 16 [iz] zakar ana ardišu 彼の僕に言った。
- C₂ 17 [m]ašumma luštēi taqabbi 「『わたしは何を⁴ 探り出すべきでしょうか』とお前は言う。
- C₂ 18 šipra ša agabbûku わたしが伝えるお告げに
- C₂ 19 šuṣṣir atta 注意を向けよ。
- C₂ 20 igaru šitammianni

² 第2の書板からのキャッチライン。

³ エンリルは洪水によって人類を滅ぼそうと決意したが、エア(エンキ)といえどこの決定に反対することはできなかった。そこで彼はアトラ・ハシースに夢によってエンリルの決定を教示する方法を取ったのである。

⁴ Dalley は von Soden 1979, 32 に従い,「寝床で」と訳出する。

壁よ、私に聴け。

- C₂ 21 kikišu šuṣṣiri kalâ zikrija 葦の壁よ,わたしのことば全てに注意を向けよ。
- C₂ 22 ubbut bīta bini eleppa 家を壊して、舟をつくれ。
- C223 makkūra zērmaC224 napišta bulliṭ財産を捨て⁵て、命を保て。
- C₂ 25 [e]teppu ša tabannû[ši] お前が告る舟は、

継続する2行はテキストの判読が困難である。

- C_1 28 []x ur pa?ti x x[.....]
- C₁ 29 [kī]ma apsī šuati ṣullilši それにアプスーのように(屋根として)覆いをせよ。
- C₁ 30 ajīmur dŠamaš qurebša (そうすれば) シャマシュはその内を見ることはない。
- C₁ 31 lū ṣullulat eliš u šapliš その上と下に覆いをつけよ。
- C₁ 32 lū dunnunā uniātum 装備は強固でなければいけない。
- C₁ 33 kupru lū dān emūqa šurši アスファルトを強くせよ。(舟) に強度を与えるために。
- C₁ 34 anāku ullîš ušaznanakku

⁵ 原義は「憎む」。

⁶ エンキがアトラ・ハシースに命じて造らせた舟は方形の3階建構造をもつ。

アトラ・ハシース叙事詩 (Atra-hasīs) (4) (桑原)

わたしはその間にお前たちのうえに雨を降らせよう7。

- C₁ 35 hiṣbi iṣṣūrī budduri nunī⁸ おびただしい鳥と一籠の魚(とともに)。」
- C₁ 36 ipte martakta šuati ummali 彼は砂時計を開いて、それを満たした。
- C₁ 37 bâ' abūbi 7 mūšišu iqbišu
 彼 (エンキ) は彼 (アトラ・ハシース) に告げた。
 七夜の間に洪水が圧倒することを。
- C₁ 38 ¹Atramhasīs iqbia tērtam アトラ・ハシースは指令を受けた。
- C139 šibuta upahhir ana bābišu彼は彼の門に長老たちを集めた。
- C₁ 40 ¹Atramhasīs piasu īpišum[a] アトラ・ハシースは口を開き,
- C₁ 41 [i]zzakar ana šibuti 長老たちに言った。
- C₁ 42 [it]ti iliknu ili ul magir 「わたしの神はあなたたちの神を気に入っていない。
- C₁ 43 [ī]tetezzizū ^dEnki u ^dEnlil エンキとエンリルは互いに立腹している。
- C₁ 44 [it]tarduninni ina [] 彼らはわたしを「わたしの家?] から引きずり出した。
- C₁ 45 [iš]tuma aptana[llahu ^dEnki] わたしが常々「エンキを崇] 敬するので、

⁷ 洪水を含意する。

⁸ ギルガメシュ叙事詩 第 11 の書板 44 行を参照。See, Lambert/Millard 159. 月本昭男『ギルガメシュ叙事詩』岩波書店, 1996 年, 138 頁注 13 参照。

⁹ 直訳は「あなたたちの神と一致しない」。

C_1	46	LawJātam annî∟tam iqbiJ
		[彼はわたしに] 事の(次第について)[話したのだ。]

- C₁ 47 [ul] uššab ina š[a- ku-nu¹⁰] わたしは(もはや)[あなたがたの……]に住まうことはでき [ない。]
- C₁ 48 [ina] erṣet dEnki ul [ašakakan šēpija] わたしはエンリルの地域 [にわたしの足を置くことは] できない。
- C₁ 49 [it]ti ilı u x [] [わたしはアプスーに向かって下っていって, (わたしの) 神と共に留まらなければならない¹¹。]
- C_1 50 [annita]m iqbia a[m] [これが] 彼がわたしに話したことなのだ。」 以下この欄の終わりにかけて 4-5 行の欠損が認められる。

第2欄

初頭の9行は欠損していて翻字・翻訳はできない。

- C₂ 10 šibu[tum] 長老たち「
- C₂ 11 nagā[ru naši pāssu]¹²大 [工¹³ は彼の斧を運んだ。]
- C₂ 12 atkuppu naši abanšu

¹⁰ ku-nuの文字が読み取れる。Lambert/Millardでは欠字とされる。

¹¹ Dally による補充訳に従った。30 頁参照。

¹² ギルガメシュ叙事詩 第 11 の書板 50-55 行を参照。See, Lambert/Millard 160.

¹³ nagāru と 12 行目の atkuppu は舟の建造にかかわる職種である。

アトラ・ハシース叙事詩 (Atra-hasīs) (4) (桑原)

葦細工人は彼の石14を [運んだ。]

C_2	13	kupra Li	ttašu	šerru]		
		「子ど*	5] lt	瀝青を	「運ん	だ。]

C214 lapnu hišhta ūbla貧しい者は「必需品を持ち込んだ。]

テキストは 18 行目にアトラ・ハシースを読みとれるが, 15 から 21 行にわたって粘土版左端にわずかな文字が残る程度である。

 C_1 28 me? [29 ubb[al] C_1 30 mimmma i[šû C_1 なんでもそこにあった「 C_1 31 mimma i [šû なんでもそこにあった「 C_1 32 elluti it-浄いもの []15 33 kabrūti []-ri C_1 肥えたもの「 C_1 34 ibīru[ma] [uštēr]ib 彼は選別し、(舟に) 持ち込ませた。 35 muppa[ruša issur] šamaij C_1 大空をまう翼を広げた「鳥,] 36 bū[lu] x -ka-an C_1 「シャ]カン16の牛,「

¹⁴ 細工を施すために使用される道具。葦を細工するには適当な長さに揃え切るナイフと葦を細工し易いように平らにする石が必要とされた。

¹⁵ きよいもの、33行目の肥えたものは動物を指す。

¹⁶ シュメール語 Šakan/Šakkan。アッカド語テキストには Emesal の変種 Sumuqan として出てくる。神格化され四足歩行獣、とりわけ牛を飼育する草

C_1	37	na[masê] x şêri
		野獣たち,草原の[]
C_1	38	[uš]tērib
		[]彼は(舟に)持ち込ませた。
C_1	39	[] ibbabil arhu
		[]月は消え失せた。
C_1	40	[] nišišu iqri
		[」彼は彼の民を招いた。
C_1	41	[] ana qerēti
		宴会に[]
C_1	42	[] kimatašu uštērib
		[]彼は彼の家族を乗り込ませた。
C_1	43	[ākir]ū ikkal 44 šātû išatti
		彼らは「食し,」 「飲」んでいた。
C_1	45	irrub u uṣṣi 46 ul uššab ulikammis
		彼は入ったり,出たりした。彼は座ることも,跪くこともで
		きなかった。
C_1	47	hepîma libbaš imâ'martam
		彼の心臓は破れ,胆汁を吐いた。
C_1	48	ūmi īšnû pânuš
		空の様子17 が変わり,
C_1	49	ištagna ^d Adad ina erpeti
		アダドは雲間に唸り声をあげた。

原を体現する。冥界の神としても登場する(Cf. シュメール語による一連のギルガメシュ物語 "ギルガメシュの死")。冥界との関係は荒野を冥界の入り口とするバビロニアの冥界観に由来するかもしれない。

17 原意は「顔」。

- C₁ 50 ila¹⁸ išmu rigmšu 彼 (アトラ・ハシース) は彼 (アダド) の声を聴いたとき,
- C151 [ku]pru babil ippehi bābšu瀝青が持ち込まれ、彼は彼の扉を閉じた。
- C_1 52 ištuma īdilu bābšu 彼の扉に閂をかけると,
- C₁ 53 dAdad išaggum ina erpeti アダドは雲間に唸り声をあげていた。
- C₁ 54 šārū uzzuzu ina tebîšu 彼が立ち上がると,風¹⁹ は荒れ狂い続けた。
- C₁ 55 ipru' markasa eleppa ipṭur 彼は綱を断ちきり、彼は舟を解き放った。

第3欄

最初の6行はほぼ欠損していて欄の右側の文字を多少判読できる程度である。

- C_1 7 [dAnzu ina s]uprišu [アンズー (鳥) はそ] の爪で、
- C₁ 8 [ušarriṭ] šamai 天空²⁰ を [引き裂いていた。]
- C₁ 9 [m]ātam
- C₁ 10 [kīma karpati ri]gimša ihpî

¹⁸ ila Lambert/Millard は「~するやいなや」と訳出する。

¹⁹ 複数で表される。様々な風を意味する。

²⁰ 古代メソポタミア人は、天は複数の層から構成されている、と考えていた。 聖書の記述にも見られる。Cf. 創世記1:1。

その騒音を彼は21	「(北十七川)	の毒のよう	17 22 料応1 ナッ
て リ畑田 日 ど1欠 は ***	(水白 1.3安)	ひが見ひたみつ	VC *** 水刀1114 し / ご c

C_1	11	[ittaṣâ] abūbu
		[]洪水が[始まった。]
C_1	12	[kīma qabl]i eli nišī ibā' kašūšu
		戦闘のように,人々の上をカシューシュ-武器23が進んだ。
C_1	13	[ul] īmur ahu ahašu
		誰一人他の人を見ることが[できなかった。]
C_1	14	[ul] utēddû ina karaši
		破滅のさなか彼らは気づきは[しなかった。]
C_1	15	[abūb]u kīma lî išabbu
		[洪水]は牡牛のように大声をあげた。
C_1	16	[kima p]ari naeri 17 [-ni]m šārū

いななく野生の驢馬「のように」風は「唸り声をあげた。」

- C₁ 18 [šapat eṭ]utu dŠamaš laššu [暗闇が] 厚く覆い,太陽はなくなった。
- C_1 19 [] x-šu kīma ṣuppi [] 白い羊 24 のように,
- C₁ 20 [] abūbi [] 洪水の
- C_1 21 [
- C_1 22 [
- C₁ 23 [] rigim a [būb]i
 - 21 アダトかアンズー鳥であるが、いずれであるかテキストからは不明。
 - 22 Lambert/Millard による補充訳。

Cf.ギルガメシュ叙事詩 11 の書板 107 行。

[] 大地は [壺] のように壊れた。

- 23 kašūšu 破滅をもたらす武器。洪水を象徴する。Cf. CAD K296b。
- 24 Dally 訳に従った。白い羊とは犠牲の羊の意味であろう。44 行を参照せよ

- C₁ 24 []-bi ilī uštakan 神々の「] を示された。
- C_1 25 [dEnki? i]štani ţēmš エンキはもくろみを変えた。
- C126 [x] mārūkšu ubbukū27 [an]a mahrišu彼の息子たちは追い払われた。彼の面前で。
- C₁ 28 [dNi]ntu bēltum rabîtum 偉大なる婦人ニントゥは
- C₁ 29 [pul]hīta ukallā šaptāšaその唇は [霜]²⁵ のような皮で覆われていた。
- C₁ 30 ^dAnunna ilu rabûtum 偉大なる神々アヌンナキは
- C₁ 31 [waš]b[u] ina ṣūmi u bubuti 渇き飢えて座っていた。
- C₁ 32 īmurma iltum ibbak[i] 女神は見て涙した。
- C₁ 33 tabsūt ilī erišta ^dMami 神々の産婆,賢いマミは²⁶(言った)。
- C₁ 34 ūmur lidda[im] 「昼を暗くさせよう。
- C_1 35 litūr līkil 向きを変えて、暗くしよう。
- C₁ 36 anāku ina puhri ša ilī わたしが、神々の集会で

²⁵ Dally の訳注 37 参照。

²⁶ しばしば施される修辞法で、前文の主語は後置文において明示される。32 行目の女神は23行においてマミであると特定される。

- C₁ 37 kī aq[bi] 38 ittišunu gamerta[m] どうして命じることができたでしょうか,彼らとともに全滅を。
- C₁ 39 ^dEnlil idpira ušaqbi bī[ša]
 エンリルはやり過ぎて、悪しき命令を下した。
- C₁ 40 kīma Tiruru²⁷ šuāti 41 ušashi bīš[a] あのティルルのように、彼は悪しきことを持ち出した。
- C₁ 42 ana ramanīja u pagrija わたし自身に向けられ、またわたしの体に向けられ
- C₁ 43 ina ṣerijama rigmišina ešme わたしに対抗する彼らの喧騒にわたしは耳を傾けた。
- C₁ 44 elēnuja kīma ṣuppi 45 īwu lillidu わたしから離れて、白い羊のように、わたしの子孫はなって しまった。
- C₁ 46 u anāku kī ašābi 47 ina bīt dammati sahur rigmī わたしについては嘆きの家に住んでいるかのように、わたし の叫びは静かになった。
- C₁ 48 etellima ana šamai わたしは天に昇って行って,
- C149 tūša wašbāku50 ina bīt nakkamatiあたかも住まうかのようだ, 宝物の館に。
- C₁ 51 êša Anu illikam bēl ṭemi 告知の主アヌはどこへ行ってしまったのか。
- C₁ 52 ilū mārūšu išmû zikiršu(どの) 彼の息子たちの神々が彼の命に服したのか。
- C₁ 53 ša la imtalkuma iškunu a[būbu]

²⁷ 悪鬼の一種か。

アトラ・ハシース叙事詩 (Atra-hasīs) (4) (桑原)

熟慮しなかった者 (アヌ) はただ洪水をもたらせた。

C₁ 54 nišī ikmišu ana ka[rašî]

人々を絶滅へ向けて集めた「者]。

この欄の最後の一行は残念ながら欠損していて解読不可である。

4欄

最初の3行は欠文である。

- C₁ 4 unabba ^dN[intu] [ニ「ントゥ」は嘆き悲しんでいた。「
- C₁ 5 abuman uldā g[allata] 6 tâmta kīma kulīli 『実父?がうねる²⁸ 海を産んだ(ことで) 蜻蛉たちのように²⁹
- C₁ 7 imlânim nāram彼らは河をいっぱいにしたのだろうか。
- C₁ 8 kīma anim īmida ana s[apanni] 筏のように彼らは低地に寄りかかった。
- C₁ 9 kīma anim ina ṣēri īmid ana kibri 平原の筏のように彼らは堤に寄りかかった³°。
- C₁ 10 amurma elišna abki わたしは見て,彼らを悲しんで泣いた。
- C₁ 11 uqatti dimmati ina ṣērišin わたしは(もう)彼らのために嘆き尽きはてました。」
 - 28 海を形容する語句 gallu/gallatu
 - 29 kulilu は魚人間をも意味するが、ここでは蜻蛉と解するべきであろう。ギルガメシュ叙事詩 第 10 の書板 第 6 欄のウトゥナピシュティムのことばに 蜻蛉たちへの言及がある。
 - 29 いつかは、川が増水し、洪水をもたらす。
 - 30 蜻蛉たちは川面を流れる。Dally 注 41 参照。
 - 30 8-9 行の描写は筏のように河を下る様を表現したように思われる。

- C₁ 12 ibkima libbša unappiš彼女は泣いて、心を落ち着かせた。
- C113 unabba dNintu14 lalâšu iṣrupニントゥは 悲しんで,彼女の感情を吐き出した31。
- C₁ 15 ilū ittiša ibku ana mātim 神々は彼女と共に国土のために泣いた。
- C116išbi nissatam17ṣamiat šikriš彼女は悲しみに飽き、乾のためビールを切に願った。
- C₁ 18 ši ašar ūšib ina bikīt 19 ūšbuma kīma immeri 彼女が悲しんで座っているところに,(偉大なる神々も)羊の ように座っていた。
- C₁ 20 imlûnim rāṭam 彼らは喉笛で満たした³²。
- C₁ 21 ṣamia šaptāšunu³³ bulhīta 彼らの唇は熱で乾き。
- C₁ 22 ina bubūti 23 itanarrarrū³⁴ 餓えのために 恐怖に囚われた。
- C_1 24 7 \bar{u} mi 7 mušiatim³⁵ 7日7 晩のあいだ
- C₁ 25 ilik rādu mehû [abūbu] 氾濫と嵐, [洪水] がやってきた。

26 行から 48 行まで右側辺に多少の文字を判読できるが、ほぼ欠損してい

³¹ şarāpu「焼き焦がす」が原義。

³² rāṭu の原意はパイプ, とりわけ灌漑用に使用される。金属製のパイプの用例としてもでてくる。

³³ 第3欄29行参照。

³⁴ arāru の Gtn 形。

³⁵ Cf. ギルガメシュ叙事詩 第11の書板 127 行。

るため判読は不可能である。この欄の終わりにかけて、さらに5-6 行にわたる欠文が認められる。

第5欄

~	の脚のニナフ	ı	14440	90 分ほ	じか担し	アルフ
$\overline{}$	の欄のテキス	Γ	は好めの	29 1 I V	と火担し	ノしいわっ

- C1
 30 ana šār[ī]

 風に[]

 C1
 31 [i]ttadi []

 彼は[]
 置いて、

 C1
 32 izannun []

 彼は食べ物を与え、[]
]

 C1
 33 []
- C₁ 34 [iṣinu i]lū ereša 神々は香りを「嗅ぎ,]
- C₁ 35 [kīma zubbi] elu niqî pahru [蠅のように] 供物の上に集った。
- C₁ 36 ištum]a īkulu niqiam 彼らは供物を食べ終えると,
- C_1 37 [dNin]tu itbêma ニントゥは立ちあがり,
- C_1 38 napharšunu uttazzam 彼ら全てに不平を言った。
- C_1 39 êša Anu illikam 36 40 bēl ṭēmi 「告知の主(40)アヌはどこに行かれたのだろうか。

1

C₁ 41 dEnlil iṭhia ana qutrīni

³⁶ Cf. ギルガメシュ叙事詩 第11の書板 167-169 行。

エンリルは焼香に行かれたのだろうか。

- C₁ 42 ša la imtalkuma iškunu abūbu 熟慮せず, 洪水をもたらした彼らは
- C₁ 43 nišī ikmisu ana karašî 人々を破滅へ向けて集めた³⁷。
- C₁ 44 ublā pīkunu gamertam あなたは³⁸ 絶滅をもたらせた。
- C₁ 45 ellutu[m] z[ī]mūšina i'adru 光り輝く彼らの顔つきは暗くなった。」
- C₁ 46 u šī iṭhema ana sube rabûti³⁹ そして彼女は [アヌが造り, ……した(47行)] 大蠅⁴⁰ ども に近づいた。
- C₁ 47 ša Anu ī<pu>šuma [ipanqalu/al⁴¹]
- C₁ 48 jattum nissasu 「彼の悲しみはわたしのものでもあるのです。
- C₁ 49 lū šīmti ib[â] わたしの運命をお定めください。
 - 37 42-43 行は C₁ 5 欄 53-54 と並行する。
 - 38 直訳では「あなたの口」となる。
 - 39 この行より6欄6行まで物語としてギルガメシュ叙事詩 第11の書板 162-165と対応する。
 - 40 蠅の象徴的意味ついては明らかではない。蠅の象徴については Dally の脚注 42 を参照。いずれにせよ人間の死や都市の崩壊と関係づけられるか。See, A. D. Kilmer, "The symbolism of flies in the Mesopotamian flood myth and some further implications," in *Language, Literature, and History: philological and historical studies presented to E. Reiner*, ed., F. Rochberg-Halton, New Haven, 1987, 175-180.
 - 41 この行における後半部分は語根の取り方にもよるが理解し難い。Lambert/Millard は語根を paqālu「運ぶ」と取るが、pagālu「強い」とも読める。

- C₁ 50 lišēṣânnima ina nelmēni彼 (アヌ) はわたしを災いから解放し、
- C_1 51 pānīja lipt[e] わたしを楽しくさせてくれよう 4 。

最後の2行は欠字・欠損が多く翻字・翻訳は難しい。

6 欄

- C_1 1 ina ma-x [...
- C1
 2 zubbu a[nnûtum]
 3 lū uqnî kišādij[ama]

 これらの蠅を、
 わたしのラピス・ラズリの

 ネックレス⁴³ にして下さい。
- C₁ 4 luhsussu ūmi [] zi []
 (それによって)日ごと(?)[そして永遠に(?)]わたしが それを憶えることができますように。
- C₁ 5 maqūra ītamar q[urdu ^dEnlil] 戦 [士エンリルは] 船⁴⁴ を見て,
- C₁ 6 libbāti malî ša ^dIgigiイギギに対する怒りでいっぱいだった。
- C₁ 7 rabûtum ^dAnunna kalûn[i]「わたしたち、大いなるアヌンナキ、は皆
- C_1 8 ūblā pîni ištīniš māmītam ともどもに誓って一致した。
- C₁ 9 ajanu ūṣi napištum
 どこに命は行ってしまったのか。

⁴² 直訳では「私の顔を開かせよう」

^{43 「}首の周りのラピス・ラズリ (瑠璃)」が直訳。蠅の形状をしたラピス・ラズリ ビーズは知られている。注 40 を参照せよ。

⁴⁴ 祭儀の際の行進船。半月と満月の中間の形状をなす。Dally 注 43 参照。

C_1	10	kī ibluṭ awīlum ina karāši
		どうして人間は絶滅から生き残ったのだろうか。」
C_1	11	Anu piašu īpušamma
		アヌは口を開いて,
C_1	12	izzakar ana qurādi ^a Enlil
		戦士エンリルに言った。
C_1	13	mannu annitam 14 ša la dEnki īppuš
		「誰がこのことを エンキ以外にするだろうか。
C_1	15	[x x] ul? ušapta zikra
		[]わたしは命令を明かしはしなかった。」
C_1	16	[dEnki] piašu īpušamma
		エンキは口を開き,
C_1	17	[izzakar] ana ilī rabûti
		大いなる神々に言った。
C_1	18	[lū ē]puš ina pānikun
		「[まことに] あなた方の前で,わたしがそれをしたのです。
C_1	19	[ušt]aṣira napi[štam] [
		わたしは確かに命を守らせました。[
以下5	行に	こわたり欠字・欠損が多く翻字・翻訳は不可である。
C_1	20	[] i[lī?x bi?]
		[] 神々[][]
C_1	21	[a-b]ūbu
		[洪] 水
C_1	22	[] x-kun
		[][]
C_1	23	[1]ibbaka
		[] あなたの心
C_1	24	[] u rummi
		[]そして緩めた

C_1	25	_bel arn_im šukun šēretka
		「あなたの罰を[罪びとに強い,]
C_1	26	[u] ajû ša uša[s]saku awātka
		[そして] あなたのご命令に背く45 ものは誰でも,
C_1	27	[]-nu puhra []
		[] 集会[]
これる	に りラ	テキストは 10 行ほど欠損している。
C_1	38	[] x šiāti
		[] 彼女の/それ
C_1	39	[] iškunu
		[]彼/彼女/彼らは置いた。
C_1	40	[unapp]iš libbi
		[わたしは] 心を和 [ませた。]」
C_1	41	[dEnlil p]iašu īpušamma
		[エンリル] は口を開いて,
C_1	42	[izza]kar ana ^d Enki niššīki
		思慮深いエンキに言 [った。]
C_1	43	[gana sa]ssūra ^d Nintu šisīma
		「[さあ,誕] 生の女神ニントゥを呼び出しなさい。
C_1	44	[att]ā u šī mitlika ina puhri
		あなたと彼女が集会において互いに協議しなさい。
C_1	45	[dEnki p]iašu īpušamma
		[エンキは] 口を開いて,
C_1	46	[izzakar] ana ^d Nintu sassūri
		誕生の女神ニントゥに言った。
C_1	47	[attī sa]ssūru baniat šīmāti

⁴⁵ 原義の語根は nasāku のŠ形で「「取り除く」。

「あなたは誕生の女神, 運命の決定者,

C₁ 48 [] ana niši [] 人々のために

C₁ 49 [-1]i-li

以下2行ほどテキストは欠損して欠文。

第7欄

- C₁ 1 [a]ppūna šaluštum li[b]ši ina niši 加えて,人々のうちに第3の群⁴⁶をあらしめよ。
- C₁ 2 ina niši ālittumma lā ālittum人々の中に子を生む女と子を産まない女とを(あらしめよ)。
- C₁ 3 libišima ina niši pāšittu⁴⁷ パーシットゥ悪鬼を人々の中にあらしめよ。
- C14 liṣbat šerra5 ina birku ālliti子を奪い去るためそれ (子) を産んだ彼女の膝から
- C₁ 6 šukuni ugbattāti eneti 7 u egiṣiati ウグバブトゥ女祭司たち,エントゥ女祭司たち,とエギツィ トゥ女祭司たち⁴⁸ を任命しなさい。
- C_1 8 lū ikkibu šinama 9 aladam pursi
 - 46 男女以外の第3カテゴリーを意味するか。
 - 47 悪鬼の一種。根絶者を意味する。元来病魔を人格化したものに由来する。 OB やそれ以降の医学,魔術,語彙に関するリストにおいて多様な病気の一つ として見られる。陽に炎症をもたらす病気か。しばしば赤子を取り去る(死産・流産)女悪鬼ラマシュトゥ(Lamaštu)の形容辞であったり,それと前後して出てくる。See, *RLA* Band 10 Pašittu 363-364; Band 7 Lamaštu 439-446.
 - 48 ugbakkātu は ugbabtu の複数形。ugbabtu, entu, egiṣītu は神殿に仕える 女祭司たちで, 通常子供をもうけることは許されていなかった。

アトラ・ハシース叙事詩 (Atra-hasīs) (4) (桑原)

彼女たちはタブーとなりましょう。(そして)子の誕生は断ち 切られましょう。」

10 [x x]ni s[i?] x x x-tam

]

C₁ 11 [] u [na-pi]-iš-tam

以下この欄の終わりまで24行にわたり側面に多少の文字は識別できる もののほぼ欠損か欠文である。

第8欄

テキストは初頭の8行がほぼ欠損する。

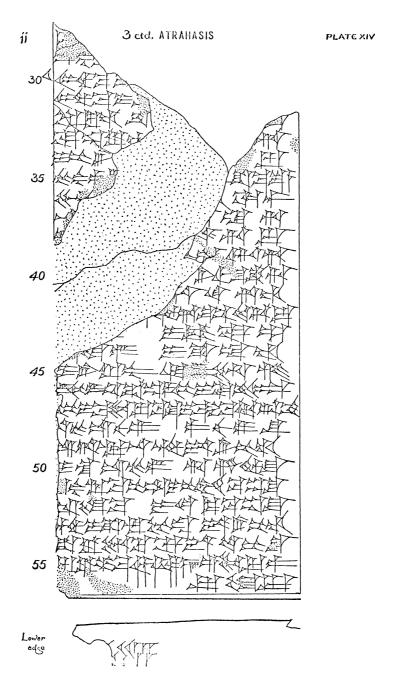
- C₁ 9 kīma nišuku[nu abūb]a わたしたちは [洪水] をもたらしたが,
- C₁ 10 awīlum ibluṭ[u ina karāši] 人間は絶滅から生き残った。
- C₁ 11 attā mālik il[ī rabûti] あなたは「大いなる神]々の顧問官だ。
- C112 têretiš[ka]13 ušabši qablaあなたのご命令でわたしは戦闘を惹き起した。
- C114 šanittiš[ka]15 anniam zam[ra]「あなた」を讃えるためにこの歌を
- C116 lišmûma dIgigi17 lişşiru narbîkaイギギに聞かせよう。彼らにあなたの偉大さを褒めたたえさせよう。
- C_1 18 abūba ana kullat nišī 19 uzammer 全ての人々に洪水について わたしは歌いましょう。

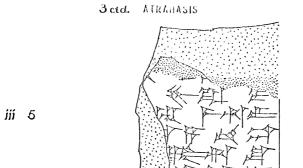
šimea

お聴きなさい!

奥付として第3の書板の終了とこの叙事詩のタイトル『神が人間であった時』が記され、叙事詩は1245 行から構成されていること、イピック・アヤ (Ipiq-Aya) なる2等書記官の手よってアミ・ツァドゥカ (Ammi-ṣaduqa) が王であったアッヤル月 [] 日に書かれたこと等が残される。

PLATE WILL ATRAHASIS 3. BM 78942 III i +78971 ≁ 80385 30 35 40 45 50



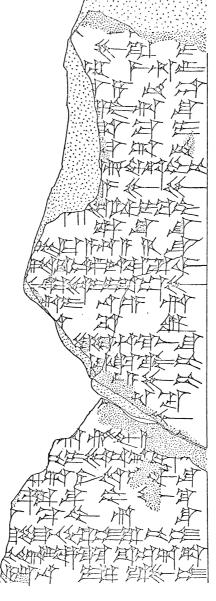








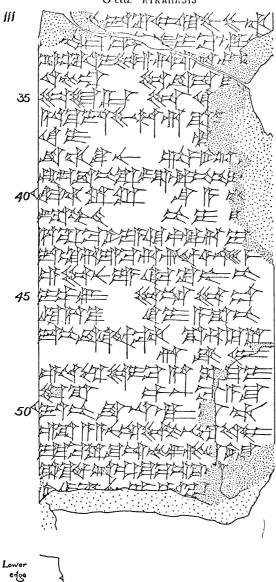




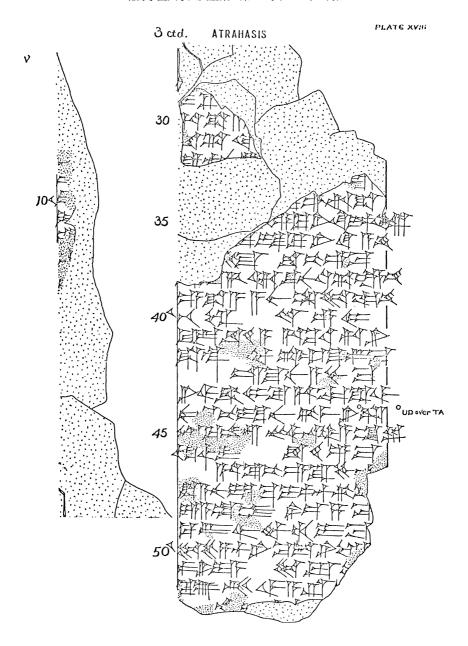
PLATG XV

PLATE XYL

3 ced. ATRAHASIS



3 ctd. ATRAHASIS PLATE XVII ÍV *1*5 25



3 ctd. ATRAHASIS

PLATE XIX

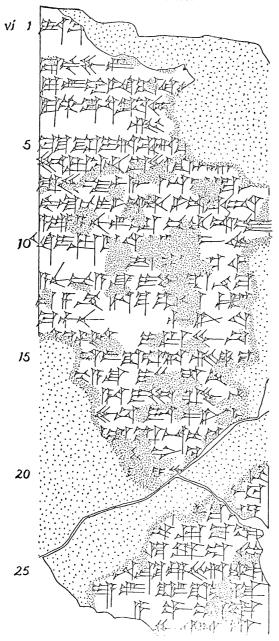


PLATE XX

